



短期
集中連載

第1回

市立新居浜商業高校 甲子園 準優勝の軌跡

～ 50年前、一番暑かった新居浜の夏 ～

「北四国大会」を勝ち抜き、夏の甲子園 初出場

今から50年前、1975年(昭和50年)開催の「第57回全国高校野球選手権大会」いわゆる「夏の甲子園」で、新居浜商業高校が初出場で準優勝を成し遂げた。その快挙は市民に感動と勇気をもたらし、それまで「アライハマ」と呼ばれていた「新居浜」の名が、全国に知れわたる出来事となった…。

新居浜商業高等学校は、昭和35年(1960年)に県内唯一の「市立高校」として開校。

※平成2年(1990年)に県立高校に移管

1962年に法政大学を卒業した新居浜市出身の鴨田勝雄が帰郷、松山北高などの監督を務めたのち、新居浜商業の監督に就任した。鴨田はその手腕と指導力で1967年の春の選抜でチームを初出場ベスト8へと導き、1974年の選抜にも出場させた。

夏の甲子園を目指す新居浜商。1975年の「第57回全国高校野球選手権大会」愛媛大

会(県予選)では47校が出場、新居浜商は第3シードに選ばれた。第1戦は丹原。打線が上位下位ムラなく打ち、村上投手が丹原を2安打に抑え、5-0での勝利。第2戦も内子に6-0の圧勝。ベスト4をかけた試合、宇和島東戦も6-1で勝利を収めた。

昭和50年の甲子園出場は、愛媛2校と香川2校の4校でトーナメントを戦い、勝ち残った1校が「北四国代表」として出場する厳しい戦いを強いられる。

※翌年から「北四国代表制」は廃止、愛媛県から1校が出場

この連載は平成31年2月～令和元年7月、「神郷公民館だより」に掲載された連載(執筆:渡部 強氏)に編集部が加筆・修正したものです。 ※文中敬称略

愛媛県の代表決定戦は今治西に7-1で勝利し、2年連続で北四国代表に。愛媛のもう1校は甲子園優勝経験もある西条、そして香川県からは志度商、そして古豪・高松商の2校が出場となる。

新居浜商は準決勝で志度商に4-3での逆転勝利、隣市決勝となった西条戦は延長10回の末、5-3での逆転勝ち。念願の「夏の甲子園初出場」を決めた。

甲子園初出場に新居浜市民は大喜び。8月2日に市民文化センター前に2,000人の市民が集まり「新商ナインを励ます市民の集い」が開催された。ステージは並べられたトレーラーの荷台。「励ます会」会長の近藤広仲商工会議所会頭の激励の挨拶、泉敬太郎市長、渡部荒一市議会議長の激励に応じて、野口泰敬主将が「元気で正々堂々と戦ってきます」と力強く決意を述べた。

その夜、多くのファンに見送られ新居浜港・西原桟橋から関西汽船「こがね丸」で神戸へ。翌3日の朝、宿舎のホテル芦屋に到着。偶然にも後に第1戦で戦うことになる九州学院が同じホテルとなった。

8月8日午前9時、「夏の甲子園」開幕。開幕式は5万2千人の大観衆に迎えられ、新居浜商は新調したユニフォームに身を固めて8番目に入場。新居浜商は大会2日目、8月9日の第4試合で、同宿の九州学院(熊本県・中九州代表)と初戦を戦うことになる。(次号に続く)



新商ナインを励ます市民の集い(1975年8月2日)